目次

口絵 …… i
序 …… iii

第一章 『竹斎』の笑いと医学

一、近世初期までの医学と瘧気 …… 1
二、『本草綱目』の到来と瘧気療治の滑稽性 …… 11
三、療治の手順と科学の外形 …… 22
四、当代医学への懐疑 …… 31
五、言葉と意味 …… 38
［注］ …… 45

第二章　『竹斎』の旅と政治

一、王難を危惧する主人公と笑いの物語　……49
二、竹斎と曲直瀬玄朔との関係　……58
三、曲直瀬玄朔の動向　……64
四、徳川による招聘とその拝受　……75
五、東下りの年代　……80
六、寛永整版本における増補　……85
七、憚りの意識　……100
［注］　……106

第三章　『浮世物語』の〈浮世〉と語りの方法

一、浅井了意の用字から　……111
二、「浮世といふ事」と〈異見〉　……119
三、〈各別〉とする語り口　……126
四、〈異なった考え方〉を許容する思想　……131
五、唱導話の在り方と新しい語り　……136

［注］……143

第四章　『浮世物語』の展開と構想された物語――147

一、転換点のありか……147
二、動きを失った浮世房……155
三、契機としての〈鳩の戒〉……160
四、知識のままに語りきること……164
五、主人公の設定と利用……168
六、話材が求められる時代……172
七、唱導のための〈物語〉の作成……176
［注］……181

第五章　〈物語〉の変化と仮名草子――185

一、カムフラージュ論、そして〈物語〉論……185
二、『囃物語』における〈物語〉の定義……193
三、〈物語〉を載せる書物……199

四、〈物語〉の定義の変化……205
五、物語観の変化と仮名草子……211
六、近世小説の成立……217
［注］……223
あとがき……227